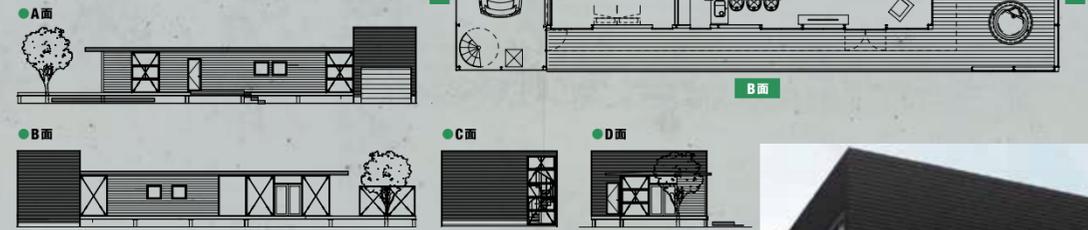


FLOOR PLAN

少し意識的に建物のプロポーションを平面図と立面図から見てもらって、このプランの縦横比率の絶妙なバランスを感じてみてください。京都の龍安寺の石庭の庭石のように、縦の突起とロングテールの取り合わせ。このフォルムが案外しっくりきて飽きが来ないのです。リビングルームからの連続性を意識したテラスには、シンボルツリーの根元にジャグジーバスを設置。同じLGSパネルに半透明のガラスを貼った衝立のようなスクリーンでプライバシーを確保します。高床式で空中にふわりと浮いているのは住居とテラスでガレージ部分はしっかり地に足をつけています。



Theme

# 崖の上に立つ理想的なプロポーションの ガレージ付き フラットハウスの実際例

崖地にあってもコンクリート擁壁を必要としない高床式工法スパイクフラット。  
実際例に即してその魅力をクローズアップします。



上/リビングルームからテラスを望む。天井は鉄骨の表面を残して木板貼り。庇との連動性を重視したミッドセンチュリーの作法。空間が外部に伸びていく印象が強調される。鉄骨と木のとりあわせは、柱の表面が少し見える在来工法の和室「真壁」のようなおさまりです。左/ガレージに面したメインベッドルームの内観。まるで愛車と一緒に寝ているようなイメージ。スリット窓の光が作り出す陰影もうれしい。



INFORMATION  
LDKinc.

デイトナをはじめ、カーマガジンでの長期連載。ムック本であるCAR&HOMEにて、常にクルマと住宅の関係について提案し続けてきた建築プロデュース会社LDK inc. 建築設計はもちろんのこと、建築システムの開発や商品開発も行う。

代表: 玉田 敦士  
WEB: [www.ldk.co.jp](http://www.ldk.co.jp)  
TEL: 03-6228-4933

DAYTONA HOUSE OFFICIAL HP  
[www.daytona-house.com](http://www.daytona-house.com)

デイトナハウスは、その奪い合いからサッと身軽に離脱したいと考えています。それを実際の山地や崖地でカタチにするのが、現代の高床式工法と言える「スパイクフラット」なのです。

ふわりと空中に浮かび上がって、崖地に張り出すフォルム。その軽快感はフットワークを信条とするデイトナ読者にびつたりなのです。今回は北九州市に実際に計画中のガレージ付きのフラットハウスをご紹介します。この建物は、スパイク数でいうと住居部分が3×9、ガレージが入ると3×11です。ガレージ部分は吹き抜けの二層になっており、そこだけが突起しています。一部が突起することで、より縦横比率が強調され、フォルムの美しさが際立つのです。

室内の間仕切りは極力なくしています。小さな書斎スペースを分節したリビングダイニングと、水まわり、寝室の3つの要素から成り立つきわめてシンプルな構成です。リビングから廊下の突き当たりのガレージに眠る愛車の気配を感じながら、崖側の自然と独り占めの青空。まさに至福のリビング空間となっています。

Text/Atsushi TAMADA CG/Kenta KITAGAWA (ldk), Soma YOKOI

What's Daytona House?

デイトナハウスを構成するのは、LGSと呼ばれる軽量鉄骨のパネルで、厚さ3.2mm、幅12.5cm、厚み5cmの「Cチャンネル」と呼ばれる部材を、横幅180cm、縦270cmの長方形に溶接して製作しています。対角線のクロスしたパーツは、「ブレース」と呼ばれる筋違いで、力の伝達を受け持つ大切な役割を持っています。「柱」と「梁」と呼ばれる縦と横の部材を使って軸組を作っていく一般的な建築とは違って、デイトナハウスはこのLGS パネルを連結することで住宅、ガレージ、別荘、店舗、マンションなどの様々な建築を可能とする、全く新しいカタチのシステムなのです。つまりこのLGS パネルを使った建物全てがデイトナハウスと言う訳です。パネルの枚数を数えるだけで、建築の広さ、およその予算がイメージできる分かります。パウダーコーティングが施されたその鉄の素材感が醸し出すハードボイルドな空間のテイストも持ち味です。

